

津山郷土博物館だより「つはく」

津博

TSUHAKU

2023.11 No.118

トピックス

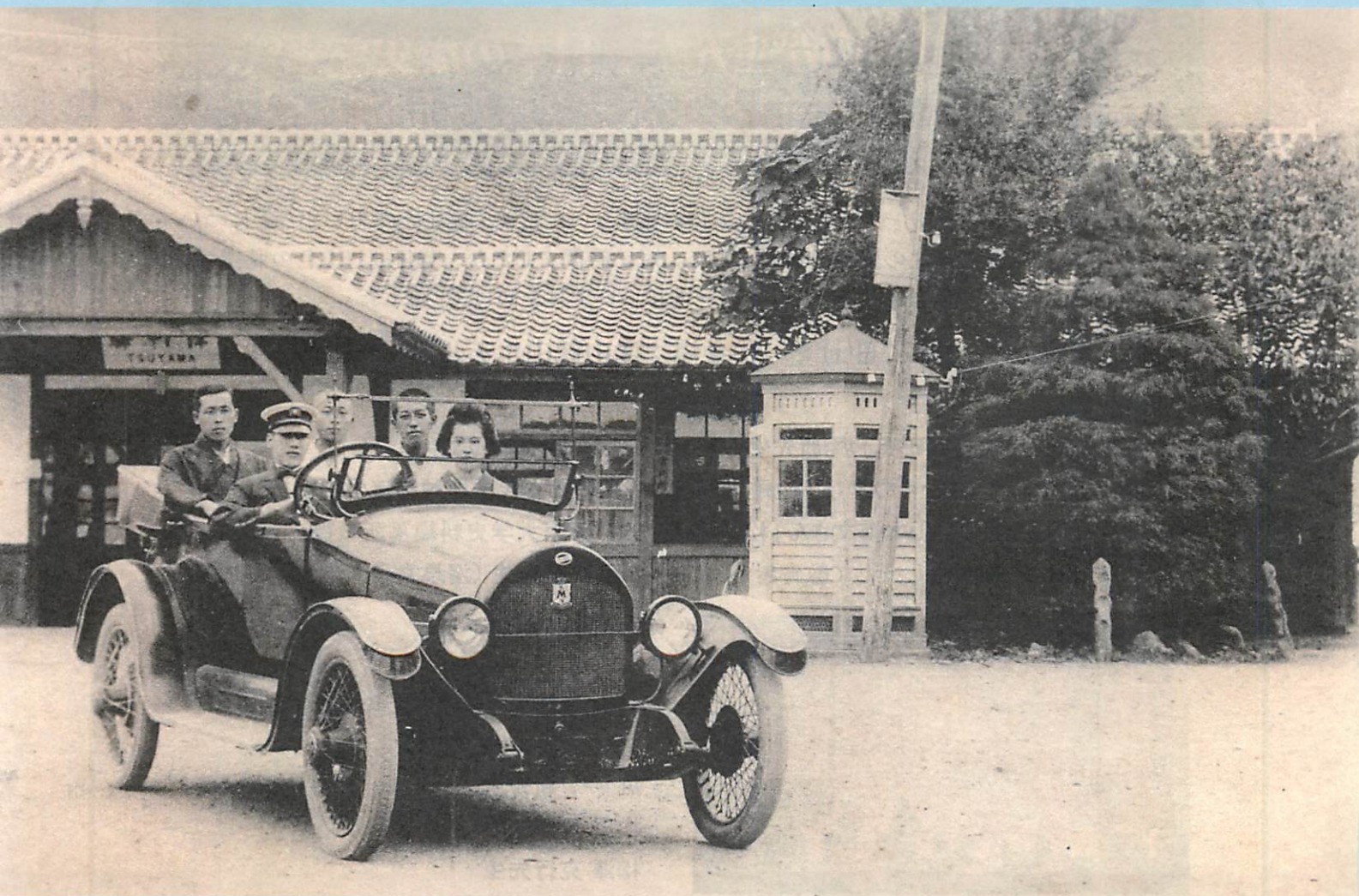
- 「歴史学者山本博文先生の仕事」開催
- 「追悼 津山が生んだ、日本の歴史学者 山本博文先生 講演とシンポジウム」開催
- 夏の学習プログラム開催
- 博物館実習の受入

資料紹介

- 考古資料この一点⑧
—長畝山2号墳・西吉田北1号墳出土の鍛冶具—
小郷 利幸

お知らせ

- 特別展「ノスタルジア ー少し昔の津山ー」開催



【大正8年～大正12年の津山駅（現津山駅）前】



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

企画展「歴史学者山本博文先生の仕事」を開催しました。

○日時：令和5年9月23日(土)～10月29日(日)

津山市出身で、東京大学大学院教授・同大学史料編纂所教授であった山本博文先生が、令和2年3月に63歳で急逝されました。先生は、日本近世史を専門として、その著作は優に100冊を超え、テレビの歴史番組などを通して、歴史学の普及はもちろん、歴史の面白さをわかりやすく語りかけて来ました。そのお人柄を偲び、先生の業績についてご紹介する企画展を開催しました。

【展示品】愛用カメラ、著書、雑誌、原稿など50点



展示のようす

「追悼 津山が生んだ、日本の歴史学者 山本博文先生 講演とシンポジウム」を開催しました。

山本博文先生と親交のあった5名の先生方にお集まりいただき、先生との思い出などについて語り合い、あらためて先生の遺業を偲びました。短い時間でしたが、当日は150名の聴講者が、我々の知らない“歴史学者山本博文先生”の一面について耳を傾けていました。

○日時：令和5年10月21日(土) ○会場：津山鶴山ホテル

【第I部】講演

「山本博文先生と織豊期研究」堀 新先生（共立女子大学文芸学部教授）

「『鎖国と海禁の時代』からの学び」松尾 晋一先生（長崎県立大学地域創造学部教授）

「史料編纂所員としての山本博文さん」松澤 克行先生（東京大学史料編纂所教授）

「山本博文先生—研究者、そして教育者として—」福留 真紀先生（清泉女子大学文学部准教授）



シンポジウムのようす

【第II部】シンポジウム

《司会》

岩下 哲典先生（東洋大学文学部教授）

《シンポジスト》

堀 新先生

松尾 晋一先生

松澤 克行先生

福留 真紀先生

令和5年度夏の学習プログラムを開催しました。

8月、小学生を対象とした勾玉づくりとトンボ玉づくりの学習プログラムを開催し、計29名の皆さんが参加されました。参加者の皆さんは、熱心に取り組まれ、それぞれに工夫を凝らした勾玉や素敵なトンボ玉を作り上げました。できあがった作品は、夏休みの宿題やキーホルダーにするそうです。感想文の一部を紹介します。

【勾玉】

思うようにけずれなかったけど、だんだんなれてきて、かわいいハートができました。(Aさん)

昔、勾玉をつくる人は、とても大変だったんだと分かった。勾玉を大切にしたいです。(はん)

まが玉のくぼみをみがくのがとてもむずかしかった。ていねいにみがいたので、手がいたくなってしまった。(Hさん)



【トンボ玉】

むずかしかった。特に、ガラスを上にしてまきつけるところがむずかしかった。いつ、まけばいいかというタイミングを合わせることもむずかしかった。でも、できたときは、うれしかった。(Nさん)

トンボ玉をつくるのが難しかったです。でも弥生時代の人たちは、大きなトンボ玉をつくったりしてすごいと思いました。(Aさん)

令和5年度の博物館実習を行いました。

令和5年7月27日、28日、8月1日、12日、13日、16日に博物館実習を行いました。写真撮影や、資料の整理、目録の入力などを行ってもらい、学芸員の仕事の一端を経験してもらいました。



学芸員実習のようす

考古資料この一点⑧ — 長畝山2号墳・西吉田北1号墳出土の鍛冶具 —

ながうねやま

かじぐ

小郷 利幸

はじめに

津山郷土博物館2階の展示コーナーに、鉄鉗(かなはし)や鉄鎚(かなづち)などの鍛冶具(写真1)や刀子などの鉄製品が展示されている。いずれも古墳からの出土品などで、特に鍛冶具は出土例も少ないので、岡山県内の類例を含め紹介したい。

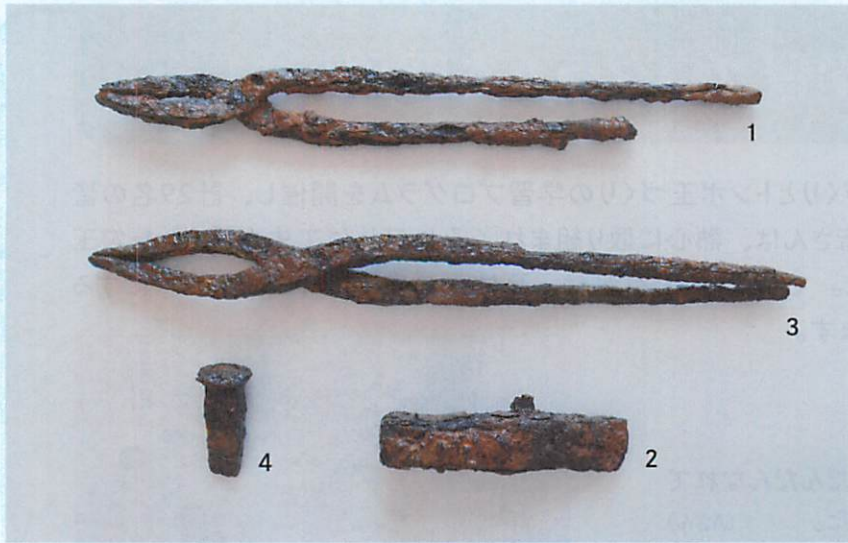


写真1 鍛冶具 1・2 長畝山2号墳、3・4 西吉田北1号墳

資料紹介(写真1、図1-1~5)

展示されているのは、長畝山2号墳(註1)出土の鉄鉗、鉄鎚、刀子(とうす)と西吉田北1号墳(註2)出土の鉄鉗、鉄鐸(てつたく)などである。

長畝山2号墳(写真1-1・2、図1-1・2)

長畝山2号墳は、津山市国分寺地内にある、直径17m程の円墳で、礫床をもつ木棺1基が検出され、その中からこれら鍛冶具(図1-1・2)が出土し、古墳の周溝内から、須恵器や埴輪も出土した。

1は鉄鉗で一部欠損し、残存長36cm、2本の鉄棒の先端部を曲げて交差させ鋸で留めて連結させている。

2は鉄鎚で長さ13・5cm、中央付近に柄を差し込む際の穴があり、そこに柄の木質が一部残り、上から楔を打ち込んでいる。

本墳は出土した須恵器から、5世紀末から6世紀初頭頃の古墳である。

西吉田北1号墳(写真1-3・4、図1-3~5)

西吉田北1号墳は、西吉田地内にある方墳で、住宅団地造成に伴い調査された。なお、長畝山2号墳とは、直線距離900mほどの近い立地である。1号墳は、一辺11m程の方墳で、埋葬施設は箱式石棺で、攪

乱のため内部からの出土品は無かったが、その周囲から鉄鉗(図1-3)、鉄鐸、周溝から須恵器や土師器、鑿(たがね、同1-4)、刀子が出土した。

3は鉄鉗で全長38・5cmを測る完形品である。形態は、長畝山2号墳のものとはほぼ同じである。

4は鑿(たがね)で全長6・3cm、断面は長方形で、先端は両方から刃がつけられ、上端部は使用により潰れている。

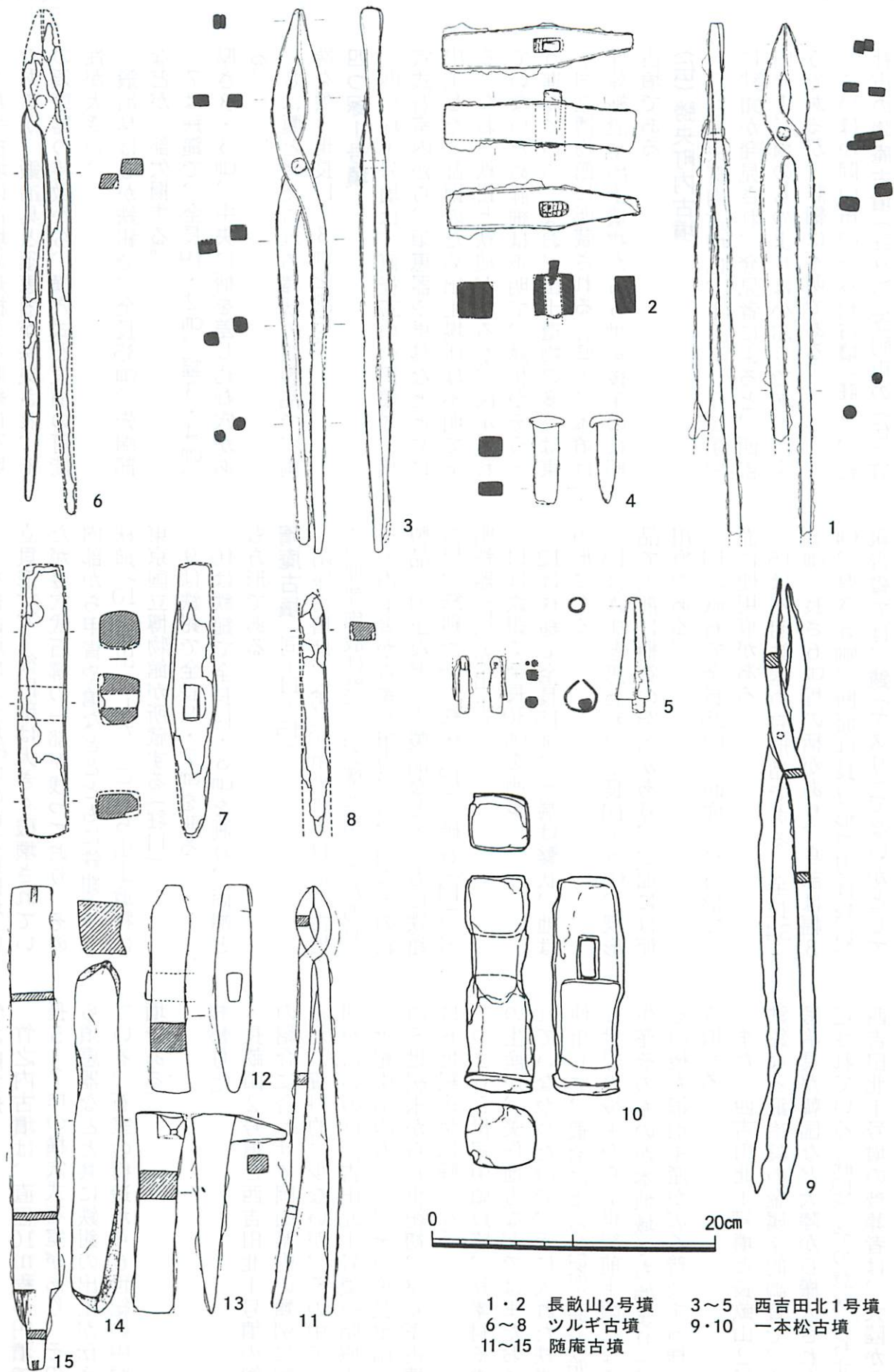
なお、鉄鐸(同1-5)が本墳から2点出土している。厚さ1mmほどの鉄板を円錐状に丸めたもので、舌がありつり下げて鳴らすもののようなものである。報告書では日本での出土例や韓国での出土例を紹介している(註5)。

本墳は出土した須恵器から、5世紀後半でも中頃の古墳で、長畝山2号墳よりは先行する時期である。

岡山県内の類例について(図1-6~15)

岡山県内の鍛冶具の類例は、本2遺跡も含め8遺跡ある。その内の5遺跡が美作地方である。

まず美作地方では、鏡野町のツルギ古墳(註3)と真庭市の四つ塚1号墳(註4)、(伝)勝央町内古墳(註6)がある。



- | | |
|------------|-------------|
| 1・2 長畝山2号墳 | 3～5 西吉田北1号墳 |
| 6～8 ツルギ古墳 | 9・10 一本松古墳 |
| 11～15 随庵古墳 | |

図1 岡山県内の鍛冶具など (S=1:4)

ツルギ古墳(図1-6、8)

ツルギ古墳は古墳の規模など詳細は不明であるが、鍛冶具と須恵器が採集され、その須恵器の特徴から、横穴式石室墳の可能性が大きい。

鍛冶具は6が鉄鉗で、全長35cm、先端部などが一部欠損する。

7は鉄鎚で、全長19・2cm、幅3・4cm、厚さ3・3cm、中央に柄を差し込む穴がある。

8は鑿と考えられる棒状の鉄製品で、両端を欠き現長17・3cmを測る。

四つ塚1号墳

四つ塚1号墳は、直径27mの円墳で、横穴式石室内から、須恵器や馬具などと共に出土した。乱掘のため出土場所は不明である。なお、鉄鉗と鉄鎚があるが、図示されていないため詳細は不明で、錆化がそうとう進んでいる。なお、出土遺物の多くは東京国立博物館に所蔵される(註7)。本墳は埋葬施設や出土遺物から6世紀後半の後期古墳である。

(伝) 勝央町内古墳

(伝)勝央町内古墳は、1970年工事中に鉄鉗が発見され、発見者によると、西吉田北1号墳のものよりは小ぶりであったようであるが、詳細は不明である。

このほか岡山市の一本松古墳(註8)、総社市の隋庵古墳(註9)、笠岡市の(伝)竹之内古墳(註10)がある。

一本松古墳(同1-9、10)

一本松古墳は、全長65mの前方後円墳(帆立貝形)で、後円部は大きく破壊されているが、横穴式石槨の一部が残っており、その内部から甲冑や槍などとともに鉄鉗(9)、鉄鎚(10)が出土した。これら出土遺物は東京国立博物館が所蔵する(註11)。

9は鉄鉗で全長41・7cmを測る。
10は鉄鎚で全長14・8cmを測り、両端とも方形である。

隋庵古墳(同1-11、15)

隋庵古墳は、全長40mの帆立貝形の古墳で、埋葬施設は横穴式石槨と粘土床があり、その内前者から鏡や甲冑、刀、剣などの鉄製品、勾玉などの玉製品などとともに鉄鉗(11)、鉄鎚(12)、鉄床(13)、砥石(14)、不明鉄器(15)が出土した。

11は鉄鉗で全長30cmを測る。
12は鉄鎚で全長15cm、一端は鑿状、他は山形になる。
13は鉄床と思われる、全長14・5cm、楔形品で上部に柄状の突出があり、上面には使用痕がある。
14は砥石で全長25cmの断面は長方形で二面に使用痕がある。

15は不明鉄器の完形品である。全長34・5cm、長さ6cm程の柄があり、身部は幅3cm、厚さ5mm、断面は長方形で刃は無い。報告書では、鏝(ヤスリ)でないかとしているが、錆化が著しく明瞭では無い。これら出土遺物から本墳は5世紀中頃以降の古墳である。

竹之内古墳

竹之内古墳は、直径10m程の円墳で、全長5・7mの横穴式石室があり、その中から須恵器などと共に鉄鉗の出土が伝えられている。石室の構造から6世紀の中頃の古墳である。

おわりに

長畝山2号墳と西吉田北1号墳の鍛冶具の紹介に合わせて岡山県内の類例に触れてみた。資料的に少ないが、その中で一番時期が古いのは西吉田北1号墳や隋庵古墳の5世紀中頃のもので、その後長畝山2号墳の5世紀末から6世紀初、ツルギ古墳などは6世紀後半以降となる。

つまり5世紀中頃以降、鉄素材そのものの生産が、美作地方などではまだおこなわれていなかったため、手に入れた鉄素材を使用して、鍛冶による鉄器生産が始まり、6世紀の後半から7世紀前半頃になると鉄生産そのものが本地域でも始まり(註12)、その後も鍛冶生産が広く普及する様子が読み取れる。

また、西吉田北1号墳と長畝山2号墳の鉄鉗など鍛冶具の金属学的調査で、これら鍛冶具が韓国など大陸から搬入されたと思定されている(註13)。その意味からすると、西吉田北1号墳の被葬者は、大陸から来た渡来系鍛冶集団そのものであった可能性が考えられ、やや時期が遅れる長畝山2号墳

は、次の世代ではなからうか。ただ、この間に墳形が方墳から円墳に変わっていること、古墳の副葬品を見ると円墳の方が種類や量が豊富になることなど、当時の社会情勢を考える上で参考になる事象である。

なお、随庵古墳の被葬者は、墳形が帆立貝形であり、埋葬施設が竪穴式石槨で副葬品に甲冑などが含まれるため、備中南部の鍛冶集団などを統括していた人物と考えられる。

ちなみに本地域では、周辺に井口車塚古墳（帆立貝形、全長35m、註14）がある。盗掘のため副葬品の詳細は不明であり、現状では鍛冶具そのものの出土はないが、鑿状の鉄器の出土がある。また、埴輪などの出土遺物から、時期は5世紀後半頃である。少なくとも井口車塚古墳は、墳形などから随庵古墳同様、このあたりの鍛冶関連集団などの統括者であったと推測される。

最後に参考までに津山市城東地区で操業していた作州鎌（写真2上）の鉄鉗の写真（同下）を載せている（註15）。色々な大きさのものがあるが、古墳時代のものとうり二つの形状で、少なくとも鉄鉗は古墳時代から現在まで形がほとんど変わっていないことがわかる。

註

(1) a 今井堯1972原始社会から古代国家の成立へ『津山市史第一巻原始・古代』b 坂本心平1996「長畝山2号墳出土の

資料について」『年報津山弥生の里第3号』
(2) 津山市教育委員会1997「西吉田北遺跡」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第58集』

(3) 安川豊史2000「ツルギ古墳」『鏡野町史考古資料編』

(4) 近藤義郎1992「蒜山原四つ塚古墳群（改訂版）」八束村

(5) 行田裕美1997「鉄鐸について」『西吉田北遺跡』（津山市埋蔵文化財発掘調査報告第58集）

(6) 註1b

(7) 本村豪章1980「古墳時代の基礎研究稿―資料編Ⅰ―」『東京国立博物館紀要第16号』

(8) 近藤義郎1986「一本松古墳」『岡山県史考古資料』

(9) 鎌木義昌・間壁忠彦・間壁葎子1996「5『随庵古墳』総社市教育委員会」

鎌木義昌1987「随庵古墳」『総社市史考古資料編』

(10) 西川宏1991「小形古墳と横穴式石室の普及」『岡山県史原始・古代Ⅰ』

(11) 註7

(12) 津山市大蔵池南製鉄遺跡や緑山遺跡がある。

久米開発事業に伴う文化財調査委員会1982「椽山遺跡群Ⅳ」

津山市教育委員会1986「緑山遺跡」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第19集』
(13) 大澤正己1997「西吉田北1号墳と

その周辺遺跡出土鉄製品の金属学的調査」『西吉田北遺跡』（津山市埋蔵文化財発掘調査報告第58集）

(14) 津山市教育委員会1994「井口車塚古墳」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第52集』

(15) これらは作州鎌関連の資料で、平成8年度に津山弥生の里文化財センターに寄贈を受けたもので、現在同センターに展示されている。



写真2 作州鎌と鉄鉗（写真提供：津山弥生の里文化財センター）

令和5年度特別展 「ノスタルジア -少し昔の津山-」開催中

津山市街はいにしえの世から美作の中心として栄え、その時々によって風景は変化してきました。本展覧会では、概ね大正時代から昭和40年代頃の写真を展示して、移り変わり行く津山の姿をご紹介します。

【会 期】令和5年11月4日(土)

～ 12月17日(日)

【休館日】12月4日(月)・11日(月)

【入館料】一般300円

高校・大学生・65歳以上200円

中学生以下無料



展示のようす

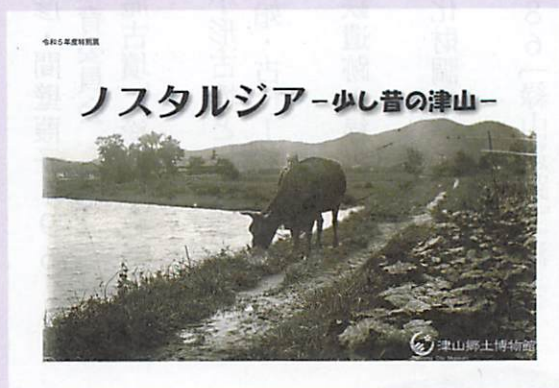
本展覧会の図録

「ノスタルジア -少し昔の津山-」
を頒布中です。

【頒布価格】1,000円

展覧会で展示している写真約70点について解説をつけた図録です。少し昔の津山を知る一助にしていだければ幸いです。

この機にぜひご一読ください。



図録



博物館だより「つはく」
No.118 令和5年11月30日

津博
TSUHAKU

【編集・発行】津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tvt.ne.jp

【印 刷】有限会社 弘文社

入館のご案内

【開館時間】午前9:00～午後5:00

【休 館 日】毎週月曜日・祝日の翌日

年末年始(12月29日～1月3日)・その他

【入 館 料】一般…300円(30人以上の団体の場合240円)

高校・大学生…200円(30人以上の団体の場合160円)

65歳以上…200円(30人以上の団体の場合160円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方は入館料が無料です